まちづくり會報
ひがしの

第５３号
発行
東野まちづくり会議
編集
東野公民館広報部
印刷　龍共印刷㈱

「町づくり」この一年を振り返って・・・・

東野まちづくり会議会長　大場　孝

昨年４月に会長に就任して早くも１年がたってしまいました。念願でありました「東野地区基本構想・基本計画」も下平前会長はじめ各リーダーの皆様の御努力のおかげで完成し、推進委員の皆様も決定いたしました。明るい話題が続くのかなとおもっていた矢先「ピアゴ閉店」のニュースがとびこんでまいりました。まちづくり会議も区民の皆様への影響を考えて全戸アンケートを実施いたしました。その結果80％の区民の皆様が困るとの事でした。アンケート結果を市にも説明し対応を求めてまいりましたがまだ良い解決方法は見つかっていません。10月に南信州クラブ様から健康体操と合わせて３００円でキラヤまでマイクロバスで公民館から買物便を出していただけると言う話があり、現在13名ぐらいの皆様に毎週水曜日に利用していただいております。３月19日20日22日23日には東野地区の寺子屋を開催いたします。30名以上の子どもさんの参加が決定しております。まだ申込みしてない子どもさんは公民館へ御連絡ください。町づくり会議の皆様と一緒に東野地区の皆様が笑顔で生活していける事を願い努力してまいります。

今年一年よろしくお願い致します。

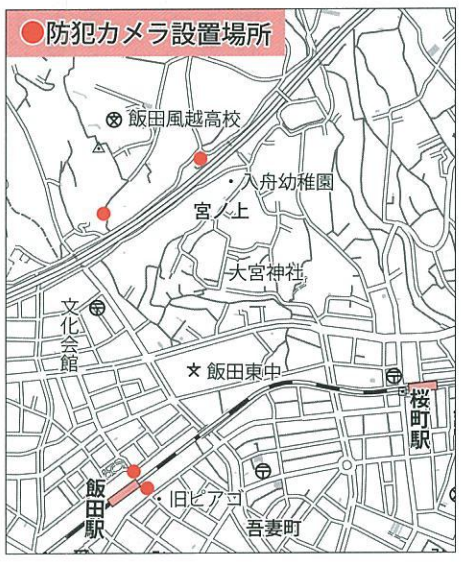
自治会長研修会　満蒙開拓平和記念館にて

犯罪抑止のために防犯カメラを設置しました

東野まちづくり会議では、以前より懸案であった飯田駅地下道、飯田風越高校周辺に出没する不審者対策として、長野県警の補助金を活用し、地区内に防犯カメラ４台を設置し、運用を開始しました。

２０１７年末から飯田警察署や飯田風越高校、飯田市危機管理室、関係自治会などと防犯カメラ設置について協議を重ね、このたび１月23日に防犯カメラの運用開始のお披露目式を行いました。

カメラを取り付けた場所は、飯田駅地下道の旧ピアゴ側のＪＲ建物と高羽南の駅裏公園内防災無線塔の２箇所と飯田風越高校近くの通称「大根坂」途中と宮ノ上地籍の高速道路ガード下付近の三差路の２箇所の計４箇所です。「地区の皆さんの安心安全を守る善意と真心のカメラ」として、今後、東野地区の犯罪抑止に役立つことを期待しています。



私たちの東野
新入学児童・生徒数
（平成31年2月末現在見込み）

		飯田東中学校	丸山小学校	浜井場小学校	追手町小学校
東野	男	10	6	2	0
	女	14	9	1	1
	合計	24	15	3	1

開花日を予想してみてね

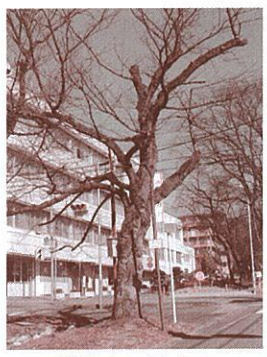
春の見所～桜並木の標本木～

飯田の桜の開花情報は、桜並木通りの中部電力前交差点南側にあるソメイヨシノの「標本木」を、南信州広域連合が委嘱した気象アドバイザーが観察して広域連合が発表しています。

この標本木の花が、５～６輪以上咲いた状態となった最初の日が「開花日」ですので、通りがかりに観察して今年の開花日を予想してみてください。

最近の開花日は２００９年が３月23日、12年が４月12日、昨年は３月27日でした。

標本木のある地点の標高は約４９８㍍、２００７年から今の桜の木になっています。



桜並木の標本木

子どもお楽しみ会

モザイクタイルアートに挑戦

育成部主催の「子どもお楽しみ会」を２月10日に東野公民館で行いました。

ＤＩＹＳＨＯＰハミングバード清水晴美さんを講師に招き「モザイクタイルアート」を手作りしました。

タイルを木枠のコースター、カレンダー、写真スタンドなどにボンドで貼っていくだけ、なんですが。

いざ始めてみるとタイルの形や大きさ、色の違いにどれを使うか悩んでしまいます。さらにどんなデザインにするか、並べてはやり直しの連続です。

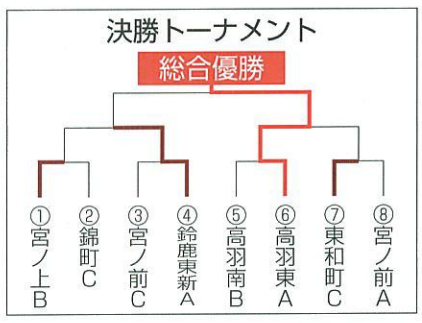
びっしり詰めるか、ダイナミックにいくか、カラフルにするか。「うーん？」隣を見ては「それいいね」と参考にする子も。コースターはゴミや水が入らないよう白いセメントで隙間を埋めていく技術が加わります。

終わったらみんなで並べて出来上がりを比べっこ！子どもらしい個性が出て見て楽しい作品が出来上がりました。

東野囲碁ボール大会　結果

2月3日体育部会主催の囲碁ボール大会が、東中体育館で行われました。

地区内より24チームが参加し、3チーム毎の総当たり戦を午前中行い、各ブロックの1位8チームによる優勝決定戦をトーナメント形式で午後から行い、高羽東Aチームが優勝しました。



桜並木

大宮諏訪神社近くに引っ越して10年ほど経った。この寄稿を機に当時の印象を振り返ってみた。

まず空気だ。美味い。地方の空気は一様に美味しいが、当地のそれは引けを取らない。

水も美味しい。水道水のことだ。生水は云々という方もおいでだが、引っ越しして数日間は空気を思いっきり吸い水をいっぱい飲んだ。

夏の早朝が素敵だ。深呼吸を繰り返し、高原の清々しさを飽きるほど味わった。

夏の昼間もよい。日差しが強いので木陰に入る。とその涼やかさは格別だ。ハワイに似ている。これを言うとよく笑われるが勝手にハワイ気分を味わうことにしている。

お練りの頃になると地域の様相が変わってくる。東野大獅子のエネルギーはすごい。引っ越して間もない小生もそれに巻き込まれお囃子笛を手にすることになった。見様見まねの昨今だ。

花火の頃は毎夜の如く、空に花が咲く。今夜は何処どこ様のお祭りだ、などの話し声が行き交う。鎮守の杜の賑わいは風情がある。

「信濃の国」は最初の数小節を覚えた。曲は長く、変調もあって難しい。曲調が良いので聞き役に回っている。

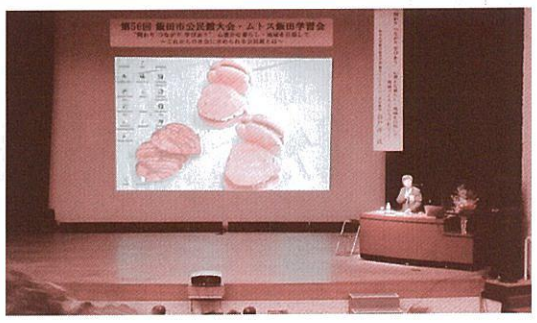
昨今、これらの感激が大分薄れてきていることに気づいた。初心を思い返し、それを取り巻く地域を感じて生きていきたいものだ。

第56回 飯田市公民館大会

“関わり つながり 学びあう”

心豊かな暮らし・地域をめざして
～これからの社会に求められる公民館とは～

基調講演



第56回飯田市公民館大会が２月17日午後１時から飯田市公民館で開催されました。

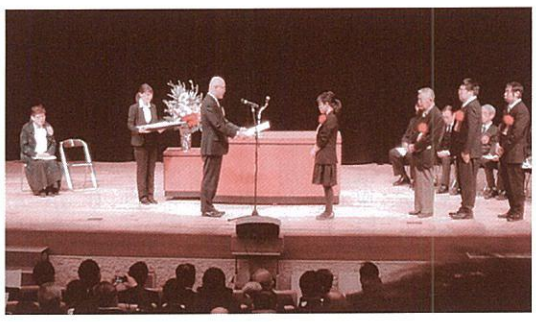
全体会と分科会が行われ全体会では、開会行事と基調講演があり、分科会では６つのグループに分かれて各々の決められたテーマにそって発表や討論が活発に行われました。

全体会の開会行事ではまず、最初に浜井場コーラスによる公民館の歌の斉唱があり公民館大会がスタートしました。大会長挨拶と続き、飯田市教育功労者の表彰があり、今回は13人（うち７人が出席）が表彰されました。当地区では公民館専門委員功労で広報部の「遠山あづみ」さんが表彰されました。

続いて第34回ムトス飯田賞の表彰があり「橋北面白倶楽部」が表彰されました。「面白いことをしながら地域を盛り上げる」を目標に活動したことが評価されました。

これらのことは、第６分科会にて同クラブが、事例発表として行いました。

また、基調講演は松本大学教授の白戸洋氏による講演が行われ、「（関わり　つながり　学びあう）心豊かな暮らし・地域をめざして」と題し、松本における事例を紹介しながら、地域づくりというけれど、実際の楽しさ難しさをスライドを交え講演していただきました。また、最後にＯＩＤＥ長姫高校の地域活動の様子も紹介され講演が終了し、分科会に移りました。



第１分科会

第１分科会は「人形劇の可能性～人形劇への想いを語ろう～」と題し、各地区での取り組みや課題を話し合いました。

先立って羽場公民館が昨年フェスタの地区公演で、独自にスタンプラリーを企画した事例を報告。子どもたちが地区内を歩いて移動し、時間差で始まる人形劇を見て回るもので、全て観ると缶バッジをプレゼントしたということでした。

グループ別のフリートークでは、チケットを巡る課題や、人材不足の補い方など、充実した議論が交わされていました。

第２分科会

「地域にとっての成人式とは」をテーマに丸山・羽場地区で取り組んだ事例の発表がありました。

祝賀会を公民館でやる意義を考えてみたら「これからの地域の担い手が、地域活動をする人達との貴重な接点の場として、一緒になって祝賀会をつくる事。」その為に、成人式前に公民館とのきっかけ作りをしたり、中学３年生に、20歳の自分への手紙を書き成人式への想いを馳せてもらう事をしているそうです。成人式までのプロセスを大切にした活動をする事でその後に繋がる良い機会になっているとのことでした。

グループディスカッションではほとんどの若者が離れてしまう地区では、思い出の給食や地域の食を手作りしたり思い出の場所巡り、地元保存会による演奏や上演と地域の皆さんが一緒になって祝っていると熱く語られていました。

若者の地域参加が少ない現状からどの地区も、これからの地域を支えていく人になってほしいという願いを感じました。

第３分科会

「スポーツが地域にもたらす力～運動会をもっと楽しく～」は地域の運動会をより良く、楽しく盛り上げていこうと考える人達約80名が集まりました。

初めに松尾、三穂、山本、上村公民館を代表する方たちが、それぞれの運動会のやりがい、達成感について発表されました。それを傍聴した会場の人達が自分の地域の運動会の現状を話し、「どうやって活気のある運動会にしたのか？」「もっと子どもや、お年寄りが集まる運動会にするにはどうしたらいいのか？」など質問し、それに対して４地区の代表が応えるという質疑応答形式で行われました。

４地区とも規模は違いますが、運動会が開催される早い段階から、中高生や女性を役員にして意見を取り入れ、お年寄りも参加できるような新しい競技を考えることがより多くの参加者を集めることができるという意見でした。

第４分科会

第４分科会のテーマは「あなたにとっての分館とは」で、75名の参加がありました。75名全体会では「分館の基礎情報について」、「下黒田東分館の事例」発表があり、そのあと10名ずつに別れてグループワーク（ＧＷ）を行いました。ＧＷではつぎのような意見が交わされました。主な発言内容は「分館は、地域デビューを支援するために行事を企画し参加を呼びかけていくべきで、このことによって参加者同士のネットワークができ地域の担い手が育つ。分館はこのコーディネーターの役割をはたすべきだ」「地域には規模の違いがあるので単なるまねはせず、多様な事例の中から一つ拾うつもりで望む方がよい」「身近で独自の分館活動を見つけよう」「楽しく気楽な分館活動を心がけるべきだ」「時代に合ったスタイルでもよいのでは」「失敗してもよい。やり直せばよいのだから」「分館役員をやって、成長し、分館活動を楽しむことを目指したい」でした。

第５分科会

「いってみよう・やってみよう　そこからつながる」事例発表①『伊賀良みらいセミナー準備会』

平成29年９月から、主に伊賀良の農家の若者５人程が月１回集まり、関心ごとを話し合うことから始まり、遊休農地対策等の学習会を行い、児童を対象に花育ワークショップを開いたり、尼崎市のお祭りで果物の販売をしたりと活動を広げました。そこからの手ごたえやつながりをもとに、今後も自然や農業を知ってもらう情報を発信し〝ちょっとやってみるか〟を大切に、さらに活動を進めたいとのことでした。

事例発表②『まいか娘の活動について』

〝まいか娘〟は上村まちづくり委員会公認レポーターで、現在４人います。地域行事に参加・取材し、上村の魅力の情報発信を行っています。新しい発見やつながりができ、ますます〝まいか娘〟として上村を元気にしていきたいと抱負を語りました。

若者世代の熱意に感動!!

第６分科会

第34回ムトス飯田賞を受賞した橋北面白倶楽部の活動報告に続き、高校生たちの地域づくり活動を支援するため今年度新設された「ムトス飯田学生助成モデル事業」に選定された６団体が活動発表を行いました。

大学生が当地域で実施するフィールドスタディ（現地学習）に高校生が参加する「高大連携フィールドスタディ」、南信州の食材を使った新商品を開発し販売する「南信州広め隊」、フォーク、合唱、邦楽など多種類音楽や、ペタンク、囲碁ボールによる世代交流を図る「飯田下伊那多世代交流プロジェクト」などが発表されました。

このあと、牧野光朗市長、ムトス飯田推進委員たちとのパネルディスカッションが行われましたが、会場からも「皆さんの思いこそが飯田の未来づくりにつながる」「何でも応援するよ！」と高校生たちの活動を応援する言葉が飛んでいました。

わがまち文化ウォッチング⑤

＝熨斗製造＝

現在日本で唯一の折り熨斗（のし）製造会社と言われている上田屋のし店代表取締役の宮島（錦町）です。

熨斗は大きさ、色、紙の質等で色々の種類ありますが、水引の掛かった金封（のし袋）の右肩に貼ってある六角形の物がよく目にする代表的な熨斗です。

熨斗は、正式には鮑（あわび）の肉を薄く長くかんぴょうのように剥いで乾燥して伸ばした、いわゆる熨斗鮑が起源。鮑は高級品ゆえに時代と共に、贈答品の印として現在の折り熨斗になったというのが通説です。また鮑は古くから不老長生、延命若返りの薬的な食物とされ、贈答品に熨斗を添えるのは、贈り主の心の清浄と貴方の健康長寿を願い心の表れの印です。

当社は、昭和27年頃それまで東京や京都、大阪など都会で製造していた熨斗を水引の産地である飯田で製造出来る店として私の先代が始めたのが起源です。時代と共に製造量も増え、ピーク時には内職の方だけで５００人位いました。その後、機械化を進め、現在数量的には７割方機械製造になっています。冒頭に記したように日本で唯一の製造会社と言われる現在、日本の文化を担っている社会的責任もあり、時代の変化があっても変わらずこの地での存続の責任を痛感する日々です。

（宮島源治）